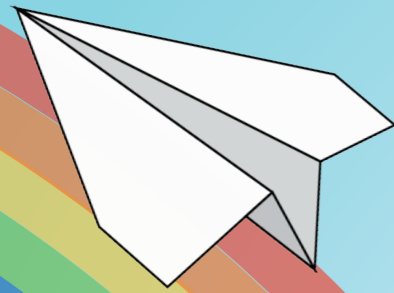


# 特定非営利活動法人 CATiC 2015 年度年次報告書 2015 CATiC Annual Report



特定非営利活動法人 CATiC (キャティック)

HP : <http://catic.asia/>  
Facebook : World Theater Project  
Twitter : @catic0901  
Instagram : catic\_asia  
Email : info@catic.asia

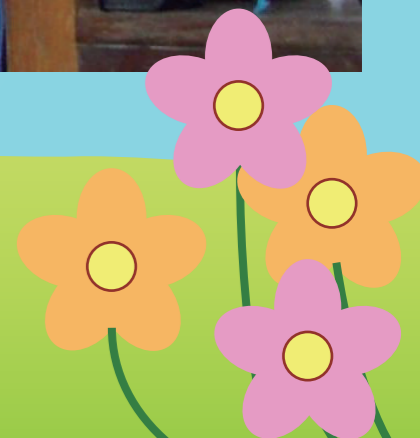


銀行口座  
みずほ銀行 世田谷支店 (支店番号 : 212)  
普通 1421847  
ヒエイリダンタイ CATiC

銀行口座  
郵便振替 10580-40736631  
トクヒ) キャティック  
【店名】〇五八  
【店番】058  
【預金種目】普通預金  
【口座番号】4073663



映画を観る子どもたちの目には  
新しい夢が映る—



## 代表挨拶

「私の習いごと歴」をお話すると、私がいかに継続できない人間なのかをご理解いただけてしまうかと思います。バレエは30分。ハーブは半年。精密射撃と空手は1年で辞めました。

途上国で映画を届ける活動は、2016年9月で5年目を迎えます。

自分にピタリとハマったものに会えると、人は継続できる生き物であることを実感し、「継続は力なり」という言葉を噛みしめております。

そして継続する力と灯を与えてくださっているのは、他ならぬ、この年次報告書をお読みくださっている皆様です。



団体は時に立ち止まり迷いながらも大きくなっていきますが、私自身は代表として、また人としての至らなさを痛感する日々でございます。そんな中、ご支援くださる皆様の存在は、皆様が思っている以上に有難く、決して諦めることなく前に進まなくてははいけないと思わせてくださいます。

途上国に映画を届けるというシンプルな活動は、やがて世界に受け入れられていく。だから焦らず、一步一步進んでいけばいいのだと、そんなことも思わせてくださる皆様に、World Theater Project を代表し、心より感謝申し上げます。

代表 教来石小織

## 組織概要



【ミッション】  
生まれ育った環境に関係なく、  
子どもたちが夢を持ち、  
人生を切り拓ける世界をつくる

## 理事挨拶

生きる上で最も大切なことの一つは、「どれだけ豊かな物語を心に蓄えておけるか」だと思っています。一度でも心の中に吸収した物語は、人生の中で必要な時が訪れると、ふと内側から蘇ってきて、その人の支えになってくれます。映画を観たその瞬間に楽しんだり勇気づけられたりして欲しいのと同じくらい、「いざという時に蘇る物語の力」を子どもたちに養ってほしい。夢の選択肢を増やしてもらうことと同時に、これがこの活動に対する私のモチベーションです。

2015年はとても多くの進歩があった1年でした。活動が広まるほど、応援が集まるほど、合わせて責任も増していきます。まずは、その責任をきちんと果たすこと。そして同時に、責任に怯えて挑戦ができない組織にならないこと。

私たちは、二兎を追いかけて、二兎ともつかまえてみせます。

これからも、一緒に活動を推進していただけますよう、お願い申し上げます。



理事 上村悠也

### ◆ 特定非営利活動法人 CATiC (Create A Theater in Cambodia)

NPO 法人 CATiC は、上映の許諾を得た日本のアニメ映画をクメール語に吹き替え、カンボジアの農村部に暮らす子どもたちに届けています。

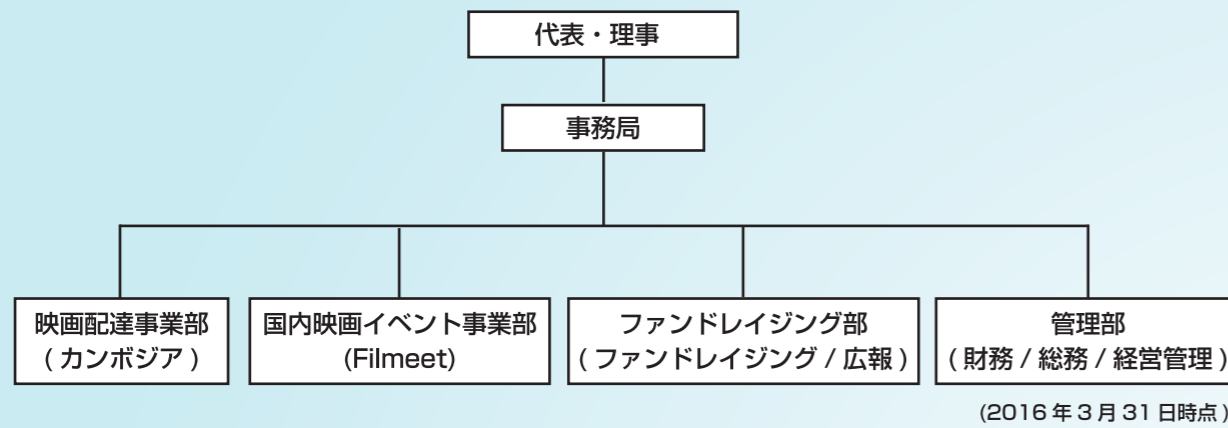
上映機材と発電機を持ち込み、広場や教室、お寺を即席の映画館に変え、映画を通じて子どもたちに夢を届ける「移動映画館」事業を主に手がけています。

夢が広がるものや、夢に向かって頑張る大切さを教えてくれる映画を選定し、上映後には、映画にまつわるワークショップを行うことで、子どもたちの将来の選択肢を広げることを目的としています。

様々な世界を見せてくれる映画が、子どもたちの未来の可能性を切り拓くきっかけになることを目指しています。

# 組織体制

## ◆ 組織体制



- ◆ 団体名：特定非営利活動法人 CATiC (Create A Theater in Cambodia)
- ◆ プロジェクト名：World Theater Project
- ◆ 代表：教来石小織
- ◆ 設立：2012年9月設立 (2014年12月24日より法人化)

# World Theater Project 始動

2015年12月1日よりNPO法人CATiCは、プロジェクト名を変更しました。

変更前) カンボジアに映画館をつくろう！

変更後) World Theater Project

設立以来、「生まれ育った環境に関係なく、子どもたちが夢を持ち、人生を切り拓ける世界をつくる」ことをミッションに、カンボジアの子どもたちに映画を届けてきましたが、将来的にはこの活動をカンボジアだけに留まらず、世界中に広げ、より多くの子どもたちに映画を届けたいと考え、プロジェクト名の変更を決意するに至りました。

1ヶ国目はカンボジア。

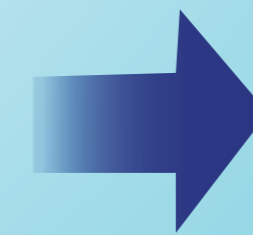
現在は、日本人大学生の駐在員と元映写技師やトゥクトゥクドライバーのカンボジア人たちが、農村部の子どもたちに、月に約1,000人の動員ペースでクメール語に吹き替えたアニメ映画を届けています。

まずはこの国での活動をしっかりと根付かせるために、カンボジアでのローカライズ<sup>※</sup>を引き続き進めて参ります。

※ローカライズ：これまで日本人が行ってきた活動が、カンボジア人だけで行えるようになること

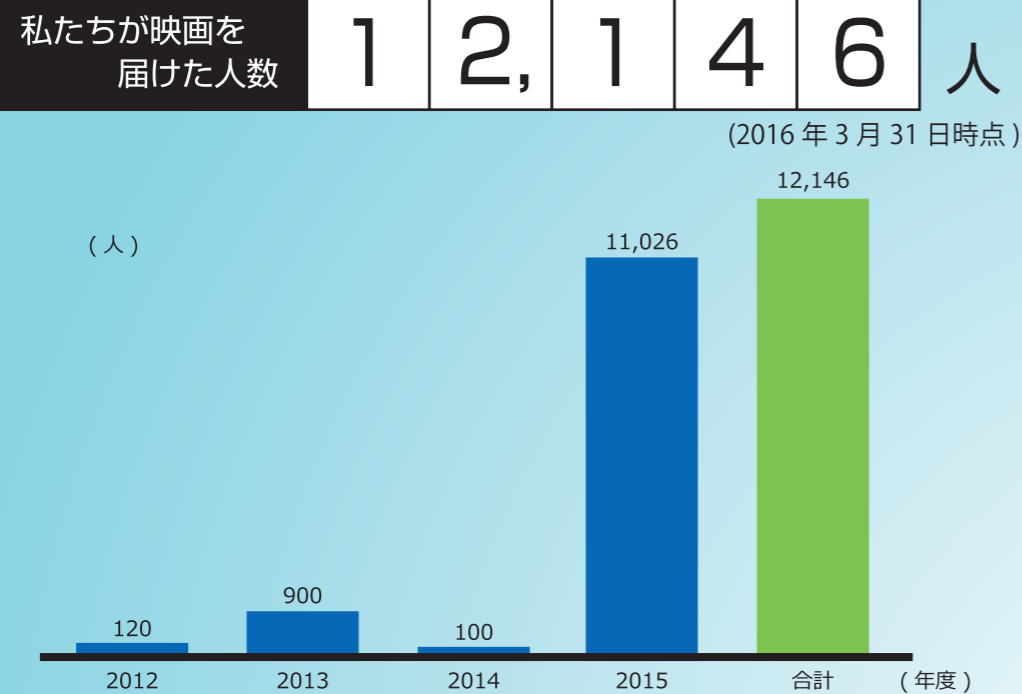
# 沿革

- 2012年9月 任意団体CATiC設立
- 2012年11月 カンボジアのシェムリアップ州で移動映画館実施
- 2013年4月 やなせたかし先生原作『ハルのふえ』の上映契約を締結
- 2013年5月 日カンボジア友好60周年記念事業 / 日・ASEAN友好協力40周年事業に認定
- 2013年7月 シェムリアップ州の4カ所の村で移動映画館実施  
フルーツのワークショップを実施
- 2014年3月 シェムリアップ州5カ所の村で移動映画館実施
- 2014年10月 『劇場版 ゆうとくんがいく』の上映契約を締結
- 2014年11月 J-LOPの助成金を得る
- 2014年12月 特定非営利活動法人に認定
- 2015年1月 他団体にノウハウと機材を渡し届けてもらう映画配達委託成功
- 2015年2月 日本武道館にて開催された「みんなの夢 AWARD5」にて優勝
- 2015年5月 シェムリアップ州で、『劇場版 ゆうとくんがいく』を上映  
プロのサッカー選手によるワークショップを実施
- 2015年9月 カンボジア拠点オープン (バットンバン)
- 2015年9月 『ニルスのふしぎな旅』の上映契約を締結
- 2016年2月 カンボジア2拠点目オープン (シェムリアップ)



# 映画配達事業

## ◆実績と概要



NPO 法人 CATiC は、プロジェクト名「World Theater Project」のもと、カンボジアの農村部の子どもたちに日本の映画を届けています。映画関連会社より上映の許諾を得た映画を持って、現地メンバーおよび日本のスタッフがカンボジア農村部にて上映会を開催しています。

2015年度は、これまで上映許諾を得ていた、『ハルのふえ』、『劇場版 ゆうとくんがいく』に加えて、新たに『ニルスのふしぎな旅』の上映契約を結ぶことができました。

上映の許諾を得たあとは、制作会社様よりお借りした台本を元にカンボジア現地語であるクメール語に翻訳し、声優による吹替え作業を行います。

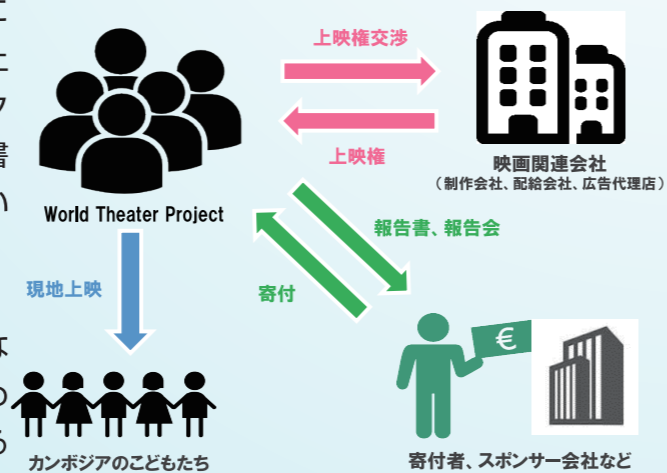
子どもたちの将来の選択肢が広がり、夢の大切さを教えてくれる作品を選んでいきます。

実際に上映を行う際には、発電機・スクリーン・プロジェクターを持ち込み、学校やお寺、広場など場所を選ばず即席の映画館を作ります。

上映後は、夢を実際に感じるためにその職業のプロをお呼びしたり、体験型のワークショップを行っています。

これまで、『ハルのふえ』上映後は、現地のミュージシャンによる音楽のワークショップ、『劇場版 ゆうとくんがいく』上映後は、現地のプロサッカー選手によるサッカーのワークショップ、そして『ニルスのふしぎな旅』上映後は、夢を書いた紙飛行機を大空に向かって飛ばすワークショップを行いました。

映画は食糧やワクチンのように、生きる上で絶対に必要なものではありません。けれども食糧やワクチンが生きるための手段であるならば、本や映画は生きる目的を与えてくれるものだとして、そう信じて NPO 法人 CATiC はこれからも多くの子どもたちに夢を届けるため活動を続けていきます。



## ◆現地メンバー 映画配達人

2015年9月よりメンバーの山下龍彦が現地でのローカライズを進めるため、カンボジアで駐在を開始しました。

バタンバン州、シェムリアップ州で現地人スタッフである映画配達人を生み出し、今では映画配達人のみでの上映会も開催できるようになり、各州、週に約2回のペースで上映を行っています。

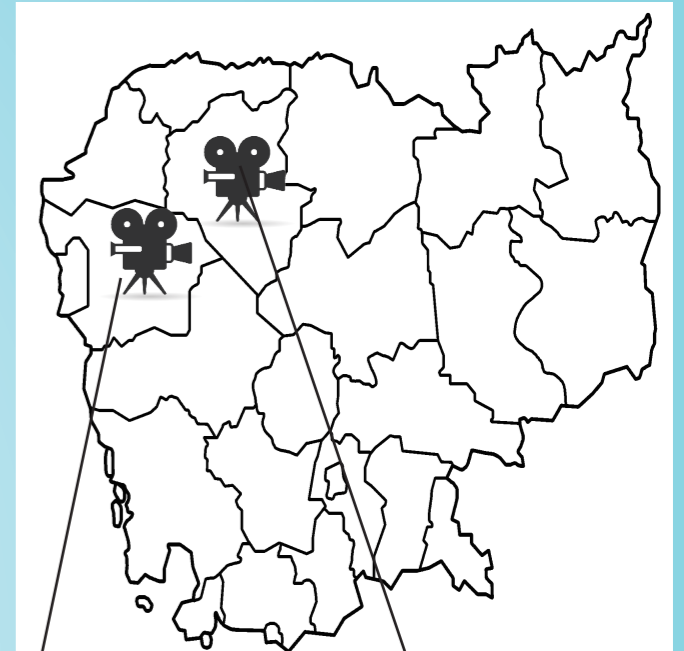
2015年12月～2016年1月に日本国内でクラウドファンディングを実施し、そのご支援で映画配達人が増加、そして映画を届けた子どもたちの人数が10,000人を突破することができました。

現在は、Facebook上でカンボジア人向けのページ、「World Theater Project in Cambodia」が開設され、現地スタッフが定期的に発信を行っています。

World Theater Project は今、確実に現地での活動を広げることができています。



## カンボジア



○映画配達人リーダー  
現地駐在員  
山下龍彦



○バタンバン州  
エン・サロン (リーダー)  
ボン・サロン  
ロン



○シェムリアップ州  
ナット (リーダー)  
ティー



## ◆上映作品

2016年3月31日時点で上映の許諾を得ているのは3作品。

- 『ハルのふえ』
- 『劇場版 ゆうとくんがいく』
- 『ニルスのふしぎな旅』



# 映画配達事業

## ◆ 映画が与える力

「頑張れば夢が叶うことがわかった」



2016年1月22日に『劇場版 ゆうとくんがいく』を上映したバイオン中学校。バイオン中学校では、上映会の直前に初めて運動会を開催しており、「皆で目標に向かって何かを成し遂げる」楽しさに目覚めていた矢先の上映でした。

上映会では、試合の動きに一喜一憂し、ゴールの瞬間には歓声を上げて観ていた子どもたち。上映後、一人の男子がこんな言葉を残してくれました。

「頑張れば夢が叶うことがわかった」

サッカーチームを結成した生徒たちは、運動会後の約1カ月間、サッカーの試合に出場することを目標に、先生も総出でサッカーの練習に取り組みました。そして、2月15日に行われたソーソースダン（大黒柱）中学校との試合。中高一貫の公立学校とのことで、高校生も出場する中、バイオン中学校の選手たちは、最初から堂々と試合に臨み、2対1で大勝利。その後、バコン中学校との試合でも、最後まで諦めず、試合終了直前に見事な同点ゴールをあげることができました。

上映会が子どもたちの刺激になり、努力の支えになったのであれば、こんなに嬉しいことはありません。子どもたちの夢を広げ、夢に向かって努力する背中を押していく。そんな姿を目指して、これからも活動を続けていきます。



## ◆ 映画配達人 エン・サロンの物語

バタンバン州の映画配達人エン・サロンは、右の手足にハンディキャップを抱えています。知人からは「タイに行けば仕事がある。物乞いだ。足の悪いおまえならびったりだ。」と言われ、過去には薬を飲んで自ら命を絶とうとしたこともありました。

そんな過酷な経験を乗り越えてきたサロンは、英語を勉強し、現在はトゥクトゥクドライバーの仕事をする傍ら、映画配達人をこんな気持ちで引き受けています。

「子どもたちに夢を贈る素晴らしいアイデアだと思った。子どもたちがスクリーンを観て驚いた顔をするんだ。笑って映画を観て、終わると『次はいつくるの?』と聞きにくるんだ。この仕事は楽しい。この仕事を与えてくれてありがとう」

バタンバンでは、今日も子どもたちに映画が届いています。



## ◆ 現地駐在員 山下龍彦 ご挨拶

皆様の温かいご支援のおかげで、本年度現地カンボジア人スタッフと共に活動を大幅に拡大し、10,000人以上の未来のカンボジアを担う子どもたちに映画を届けることができました。改めまして、皆様のご支援、ご声援本当にありがとうございます。

昨年9月の暮れにカンボジアに降り立ち、何も無いところから現地の映画監督の方や在住の方に多くの助けをいただきながら、今ではバタンバン州・シェムリアップ州の二拠点でカンボジア人のスタッフを中心となって映画を子どもたちに届けることができるようになりました。駐在を始めて間もない頃、先が見えない不安、言葉の不安、駐在への責任から食事が喉を通らなくなり、カンボジア独自の文化に戸惑うこともありましたが、今となってはいい経験になっています。この時期を乗り越えることができたのは、ご支援をくださる皆様の温かい応援、外国から来た一回りも違う自分をBossとして慕ってくれたバタンバンスタッフ、そしてなにより、日本でひたむきに活動の安定化と促進を着実にしてくれていたメンバーの存在が大きかったと実感しています。

約半年間の駐在生活の中で、印象に残っていることが二つあります。一つ目は、バタンバンで初上映をした時。上映のノウハウをカンボジア人に拙い英語で伝え、時には彼らの考えとぶつかり、数週間を要しながらなんとかこぎつけた小さな村での野外上映。バタンバンのスタッフが、小さな、でも希望に満ちた即席の映画館を作り始めると、どこからともなく集まる子どもたち。気づくと、40人弱の子どもと親たちがスクリーンの前に集まり、食い入るように映画を観ていました。この時、自分たちがしている活動の無限の可能性を感じました。それと同時に、スタッフの誇らしげな表情を見て、彼らならきっと自分たちの描いている未来を作れると思いました。

二つ目が、そんなスタッフの見事な活躍で活動が安定し始めた時に、バタンバン映画配達人のリーダー エン・サロンと初めて二人きりでお酒を交わした時のことです。バタンバンで活動を始めた時何もかもが新しいことで、毎日が選択の連続だった自分と彼。何度も小さな失敗をし、時には学校に上映拒否を言われたり、役所にたらい回しにされた自分たち。いつか、必ずこの活動がバタンバンで認められるようになり、より多くの子どもたちに映画を届けられるようになる。そう二人で信じて進んできたからこそ、今がある。当時の失敗体験や辛かったことをお互いに話していると自然と涙が出てきました。

自分のなかではまだまだ始まったばかりの、カンボジアでの映画配達。この先、今まで以上の困難や失敗がきっと待っていると思います。

でも、カンボジア人のスタッフならそれを乗り越え、そして今まで見えなかった世界を作れる。主役はあくまでカンボジア人のスタッフであり、それを支える役目を全力で担っていきます。

今後ともどうぞ、弊団体のことをよろしく願いいたします。



山下龍彦

# 国内映画イベント事業 (Filmeet)

**Filmeet**  
Meet movies and people

2015 年度より新たに Filmeet 事業を開始いたしました。

Filmeet とは、Film + Meet を意味し、映画にまつわるイベントを集めたプラットフォームです。大学生メンバーを中心とし、日本国内で映画に関連するイベントを定期的に開催し、「先進国の人が映画を観たら、途上国の子どもも映画を観られる」をテーマに、そこで出た利益を映画配達事業の資金に還元しています。

映画をきっかけに人と出会ったり、専門家の話を聞いて映画よりさらに踏み込んだ知識や教養を得たり。人生を豊かにしてくれる映画の、「観るだけじゃない」楽しみ方を提案することを目指しています。



映画『スター・ウォーズ』トークイベント



映画『スター・ウォーズ』トークイベント



映画『パティントン』料理イベント



ほっこり美味しい真冬の映画鑑賞会

## ◆ 学生スタッフコメント

Filmeet 事業とInstagram 運営を担当しております、小笠原美由（おがさわらみゆ）と申します。

Filmeet は『映画に出会う、人に出会う』というコンセプトのもと、2015 年 8 月から本格的に活動を開始しました。昨年度は 8 ヶ月で大小合わせて 12 回イベントを開催。そこで集まった寄付金は約 25 万円。現状、1 人の子どもに映画を届けるための費用が約 100 円であるため、2,500 人の子どもたちに映画を届ける事に繋がりました。

無名の活動で限られた予算ゆえ、様々な困難もありました。しかし、そんな時に最もエネルギーになったのは参加者の皆様の楽しんでいる姿、そしてカンボジアの子どもたちの笑顔だったと思います。チャレンジする機会をくださったメンバー、暖かく活動を応援して下さった皆様、そしてご協力頂いた素晴らしいゲストの皆様、感謝の気持ちでいっぱい。本当にありがとうございます。

世界中にはまだまだ映画体験をしたことのない子どもたちがたくさんいます。今後も『日本の人が映画を楽しんだら、途上国の子どもたちに映画が届く仕組み』を広げていくため、活動を続けてまいります。

イベントで皆様にお目にかかることが出来る日を心より楽しみに致しております。

今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。



小笠原美由

Filmeet 事業部の大西駿貴（おおにしとしき）と申します。普段は学習院大学の 4 年です。私は、去年の 7 月に初めて CATiC イベントの「いっしょに映画をみようの会」に参加し、その 1 カ月後くらいにはスタッフとして活動するようになりました。

World Theater Project の活動を始めてまだ一年もたっていないのですが、これまでの学生生活では考えられないほどの速度でたくさんを経験させていただいております。

メンバーの山下が現地に駐在したことで、ここ半年で World Theater Project は大きく動きました。そして、国内事業が追い付かないほどにカンボジアでの映画配達事業が進んでいます。カンボジアでの事業をもっとスムーズに進める為には 2015 年度以上の国内での Filmeet 事業の拡大が不可欠だと思っています。

2016 年度、さらに大きく World Theater Project は動く予感がしております。そんな中で活動できることをとても運がいいと感じていますし、光栄に思っていると同時に、名前だけが大きくならないように、さらに頑張ってやっていかなければならないと感じております。

皆さま、どうか今後とも応援よろしく願いいたします。



大西駿貴

## ◆ Filmeet ゲスト 河原一久氏 メッセージ

1978 年に私が初めて『スター・ウォーズ』を観た時、電撃が走ったような衝撃を受けました。その後映像関係の仕事に就いたり、映画評論を書くなど、今の私がしている仕事の方向性が決定づけられたのもこの映画を観てからのことでした。

良く知られている通り、日本で『スター・ウォーズ』が公開されたのは世界から 1 年遅れてからでした。そこには大規模公開するための映画館が空いていなかったなどの業界の事情がありましたが、そんなことなど知らない当時中学生だった私は一年も遅れて映画を観る羽目になった不幸を友人たちと呪ったものでした。

大人になった今、ちょうど私が『スター・ウォーズ』を観て夢見心地だった頃、カンボジアでは子どもたちは映画を観るところではなく、正に生き延びるために必死な状況だったことを知りました。もちろん、中学生だった私に当時何かできたはずもなかったのですが、それでも「1 年遅れの公開」という程度のことで世を呪っていたことは無知のなせる業です。あれから 37 年が経過していますが、少なくとも私自身は無知ではなくなりました。それでも無力感を感じています。

縁あって CATiC の方々と知己を得たことで私はカンボジアをはじめとした多くの途上国の子どもたちが映画を観ることすらできない環境にまだにいることを知りました。そして CATiC が映画の持つ力を「映画を観ることで将来なりたい人間としての可能性を知ることができる」と捉え、「なんとか多くの子どもたちに映画を観せてあげたい」と七転八倒していることも知りました。20 代、30 代の若者たちが中心となって理想を追う姿を目の当たりにして私は襟を正す気持ちになりました。

私自身もまた、「映画によって将来の職業への指針を得た子ども」だったからです。

まずはカンボジアに、そして可能な限りそれを世界中に広げていきたいと考える CATiC の活動に私は賛同し応援します。

でも私自身は前述したとおり無力の存在です。できることや募金できる金額も限られています。私一人で何かが変わるものでもないです。それでも「私ができる範囲のもの」は確実にあるわけで、理由をつけて「何もしない」よりは「できる範囲でも何かする」ことの方がいいことは自明の理です。

まずは私にできることをして、それから少なくともそれなりの長さを生きてきた人間として何ができるのかを考えていきたいと思っています。

河原一久

### ◆ 河原 一久氏

1965 年生まれ。TV ディレクター、ライター。『スター・ウォーズ』シリーズの日本語字幕監修、『スター・ウォーズ・セレブレーション・ジャパン』(2008 年、幕張メッセ)の監修・演出など、同作を間近で見てきた人物の一人。2003 年、第 2 回日本映画エンジェル大賞受賞。Filmeet にて 2 度『スター・ウォーズ』イベントのゲストスピーカーとして講演頂く。

### ◆ Filmeet Special Thanks 2015

河原一久 様  
伊藤さとり 様



## 書籍『ゆめのはいたつにん』 出版

2016年2月22日に代表の教来石が執筆した本『ゆめのはいたつにん』が発売されました。

教来石小織 著

定価 1,800円+税

ISBN 978-4-908586-00-2

発行 センジュ出版

流通・決済代行 トランスビュー

本文 239ページ



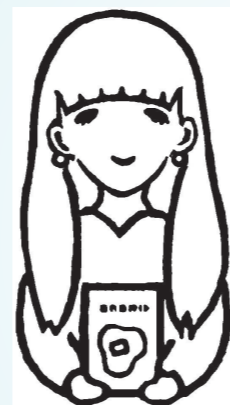
### ◆ 著者コメント

このたび、足立区千住にある「しずけさとユーモア」を大切にする小さな出版社「株式会社センジュ出版」様より、著書『ゆめのはいたつにん』を上梓いたしました。

執筆の際、団体が立ち上がる前のことから振り返り、いかに多くの皆様に支えられてきた活動だったかを改めて認識致しました。「この本を読んで初めてこの活動の意義がわかった」とおっしゃってくださる方もいらっしゃいました。恥ずかしながら、話すことが苦手な私にとって、本書の存在は大変有難いものです。貴重な機会をくださったセンジュ出版代表の吉満明子様、この場をお借りして心より御礼申し上げます。

本書には、団体の立ち上がりから、カンボジアに映画配達人が生まれるところまでが書かれております。どうぞこれからも、本書の続きとなる活動を見守っていただけましたら、これほど心強いことはございません。

教来石小織



(作・ハンコ作家 廣瀬十四三氏)



## メディア掲載

2015年度、下記メディアにてNPO法人CATiCおよびWorld Theater Projectについて紹介・掲載頂きました。

- ・NEWS ZERO
- ・東京新聞
- ・毎日新聞
- ・オルタナ S
- ・グローバルニュースアジア
- ・Yahoo! ニュース
- ・国際開発ジャーナル

## 2016年度に向けて

2016年度 NPO 法人 CATiC は、カンボジアでの移動映画館事業の安定稼動に加え、下記3点に注力して活動します。

### 1. 世界展開へ向けた準備

- World Theater Project として、世界展開開始

### 2. 新規事業の開始と安定稼動

- スタディツアー事業開始(年4回実施予定)

### 3. 更なる認知度の向上

- Filmeet の定期的な開催



今後ともご支援のほど宜しくお願い申し上げます。

特定非営利活動法人 CATiC 一同

## ◆ 活動計算書 (2015年4月1日～2016年3月31日)

(単位：円)

科目	金額		
I 経常収益			
1. 受取会費			
正会員受取会費	132,500		
賛助会員受取会費	617,900	750,400	
2. 受取寄付金			
受取寄付金	2,810,173	2,810,173	
3. 受取助成金等			
受取助成金	151,000	151,000	
4. 事業収益			
事業収益	196,325	196,325	
5. その他収益			
受取利息	91		
雑収	18,015	18,106	
経常収益計			3,926,004
II 経常費用			
1. 事業費			
(1) 人件費			
人件費計	0		
(2) その他経費			
現地活動費	759,006		
現地滞在費	1,220,000		
業務委託費	378,660		
著作権使用料	32,400		
印刷製本費	37,643		
諸謝礼	50,000		
諸会費	32,400		
会議費	43,021		
支払手数料	20,010		
為替差損	361		
雑費	93,830		
その他経費計	2,667,331		
事業費計		2,667,331	
2. 管理費			
(1) 人件費			
人件費計	0		
(2) その他経費			
印刷製本費	141,656		
消耗事務用品費	7,020		
その他経費計	148,676		
管理費計		148,676	
経常費用計			2,816,007
当期正味財産増減額			1,109,997
前期繰越正味財産額			254,521
次期繰越正味財産額			1,364,518

## ◆ 貸借対照表 (2016年3月31日現在)

(単位：円)

科目	金額		
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	1,364,518		
立替金	0		
流動資産合計		1,364,518	
2. 固定資産			
固定資産合計		0	
資産合計			1,364,518
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	0		
預り金	0		
借入金	0		
流動負債合計		0	
2. 固定負債			
固定負債合計		0	
負債合計			0
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産		254,521	
当期正味財産増減額		1,109,997	
正味財産合計			1,364,518
負債及び正味財産合計			1,364,518



株式会社オーエス 様



株式会社ファンドクリエーション 様



株式会社新日本映画社 様



株式会社白組 様



株式会社ソーケン 様



吉祥寺フランス語学院 様



株式会社バリュープレス 様



アクション株式会社 様



株式会社浩仁堂 様



ホテル中央グループ 様



一般社団法人オープンイノベーション促進協議会 様



GIRLS UP STYLE 様



株式会社ザネット 様



A-LEADS Japan 株式会社 様  
(Madori for Children)



## 寄付会員募集

NPO 法人 CATiC は寄付会員を募集しております。  
継続的に応援して下さる方の存在は私たちにとって励みとなり、そしてより多くのカンボジアの子どもたちに映画を届けることができます。

5つの会員プランの中から、ご自身に合ったプランをお選び頂けます。

ファン会員	300円/月
サポーター会員	1,000円/月
シルバー会員	3,000円/月
ゴールド会員	5,000円/月
プラチナ会員	10,000円/月

※自由な金額での寄付も随時募集しております。



月1,000円のご支援で  
月に10人の子どもたちへ映画を届けられます。

申し込み先 URL : <https://kessai.canpan.info/org/catic/>  
NPO 法人 CATiC HP : [http://catic.asia/support\\_us](http://catic.asia/support_us)

